

普及活動情勢報告（平成 28 年 8 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

～梅雨明け！本格出荷に向けて～ J A 南国市ゴーヤ部会現地検討会



自分の圃地との違いを熱心に検討

7 月 25 日 J A 南国市ゴーヤ部会の現地検討会が開催され、生産者 12 名が参加しました。農業改良普及課から盛夏期の主要病害を説明した後、ほ場 5 カ所を巡回し、栽培概要と生育の状況を確認しました。

梅雨期間が長かったため、ツルが繁茂して病気が増え、多雨による肥料切れが多くなっており、今後の整枝や追肥の重要性が再認識されました。

今後も農業改良普及課はゴーヤの安定生産に向けた情報の提供に努めていきます。

J A 土佐香美ニラ部会栽培講習会を開催



熱心に聴講する参加者

8 月 18 日に香北地区と山田地区、19 日に野市地区で J A 土佐香美ニラ部会栽培講習会が開催されました。

生産者 54 名が参加し、株養成期の栽培管理や病害対策、ネギアザミウマの発生活動と防除について講習しました。7 月、8 月には例年より降雨量が少なく、気温も高いため、土が乾燥しているほ場が多いため、こまめな灌水管理を行うように助言しました。参加者からは、灌水の間隔や回数、何時頃に灌水すると良いか等について意見が出されました。

農業改良普及課は、今後もニラの生産振興に向けて支援していきます。

J A 土佐香美キュウリ部会栽培講習会



熱心に聴講する参加者

7 月 19 日、J A 土佐香美キュウリ部会の栽培講習会が開催されました。

農家 26 名が参加し、種苗会社や農薬メーカーから病気に強くなる栽培管理方法や農薬・資材について学びました。農業改良普及課からは、天敵の活用や、炭酸ガス等を施用した環境制御技術の導入結果を報告しました。参加者からは、キュウリは短期作だが、単価の高い時期に増収が可能なら、短期作だが炭酸ガス施用機を導入したいなどの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もキュウリの生産安定にむけて支援していきます。

1 日限定「高校生レストラン」が開店しました



大勢の来店客でにぎわう高校生レストラン

8月9日、高知農業高校生活総合学科の3年生30名が、道の駅南国風良里で高校生レストランを開店しました。

毎週火曜日に風良里で農家レストランを営業している「まほろば畑」は、郷土料理の伝承活動にも取り組んでおり、役員と農業改良普及課を含む行政チームは高校生に郷土料理を覚えてもらいたいという思いから高校生レストランが実現しました。

「まほろば畑」の役員は、「ぜひ成功してもらいたい」との思いで、試作時には調理方法を指導し、当日も運営を支援しました。

当日は、予約客190名でにぎわい、郷土料理の「きゅうりとえびの葛煮」や高校生が考案した「ズッキーニとハムのフライ」など、高校生が栽培した夏野菜を使った料理に満足された様子でした。

農業改良普及課は南国市と連携して、農家レストランの組織強化とともに伝承活動を支援していきます。

～地域の担い手として発展していくために～ 平成28年度西永野集落営農組合総会



総会の様子

8月6日に香美市の永野コミュニティーセンターで、西永野集落営農組合の総会が開催され、14名（委任状含む）の出席がありました。

役員から昨年度の事業報告や今年度の新たな取り組み（園芸品目等）等の説明があり、賛成多数で承認されました。

農業改良普及課は、地域の担い手として発展していくために、法人化に向けて支援しており、その必要性や手続き等について役員の説明を補足しました。

その結果、法人化によって発展するのかといった心配する意見もありましたが、現状の組織形態では高齢化して衰退するが、若い人を雇用するためにも法人化は必要だと認識され、法人設立の発起人が選出されました。

今後は関係機関と協力して、発起人を中心に法人化に向けて協議し、必要書類案の作成等を支援していきます。

環境制御技術の更なる普及・定着に向けて ～JA土佐香美ピーマン部会から～



ピーマン部会反省会及び講習会から

7月26日、香南市野市町で、JA土佐香美ピーマン部会は反省会及び講習会を開催し、部会員17名を含む25名が参加しました。

会議ではJA、園芸連、資材メーカーなどから多くの情報提供がありました。農業改良普及課からは、28園芸年度から新たに炭酸ガス発生機を導入した農家4戸が、前年度収量を上回る成果（17～34%増）を収めたことを報告しました。この成果を見て、次作から新たに4戸の部員が炭酸ガス発生機等の導入に踏み切りました。

農業改良普及課は、今後、炭酸ガス発生機等環境制御技術を導入した部員を重点的に支援し、収量・秀品率の向上を目指します。

ピーマン南国地区合同研修会を開催



熱心に講演を聞く参加者

7月21日にＪＡ十市とＪＡ南国市、ＪＡ長岡のピーマン部会は、第８回ピーマン南国地区合同研修会を開催し、15名の生産者が参加しました。農業改良普及課は各ＪＡと研修会の開催に向けて支援しました。

研修会では、農業改良普及課から実証ほの成績を報告し、専門技術員及び農業技術センターから「ピーマン促成栽培における初期管理」、「ナメクジ・カイガラムシ対策」、「耐低温性ピーマン品種の育成」について講演がありました。生産者からは「生殖生長にしたいときの具体的な管理方法を知りたい」、「耐低温性ピーマンを栽培してみたい」などの声が上がりました。

農業改良普及課では今後も関係機関と協力し、南国市のピーマンの生産を振興していきます。

ＪＡ土佐香美柚子生産部会通常総会



黒点病、腐敗果対策について講習

8月18日、ＪＡ土佐香美柚子生産部会は通常総会を開催し、生産者90名と関係機関が参加しました。

物部地域は日本一の青果ユズ産地ですが、高齢化が進み、条件の悪い園地では放棄が進んでおり、昨年度には黒点病や腐敗果の発生による品質低下が見られました。

そこで会の冒頭、部長より「新規就農者の受入体制の整備を進めていきたい」と呼びかけがあり、生産者からも賛同の意見が出ました。

また、農業改良普及課からは、黒点病や腐敗果の対策について講習し、生産者からは薬剤の選択方法等の質問が出ました。

今後も農業改良普及課では、講習会等を通じた品質維持対策の徹底、産地協議会を通じた新規就農者の受入体制の整備を支援していきます。

課題を整理し、次年度につなげよう！ ～南国市施設園芸環境制御技術研究会反省会～



次年度の課題や目標を語る会員

7月27日、南国市施設園芸環境制御技術研究会は反省会を開き、会員9名を含む20名が参加しました。

まず、県産地・流通支援課から、県内の先進事例である「土佐あき新施設園芸システム勉強会」の活動内容を説明しました。次に農業改良普及課から、環境制御機器の事業を導入した農家の状況と成果について紹介しました。その後会員から今園芸年度の問題点と、次年度に向けた課題や目標について話があり、「灌水量が不足していたので増したい」、「手が回らなかったなので、雇用を確保する」、など具体的な取組みが語られました。

農業改良普及課は、引続き研究会活動と会員の課題解決に向けて支援します。